



丹波篠山国際博

日本の美しい農村、美事へ

丹波篠山国際博だより

問い合わせ 丹波篠山国際博実行委員会事務局 ☎558-8891

詳しくはこちら



国際博 NEWS

きさらぎ茶会

2月15日に弘誓寺(上板井)で「きさらぎ茶会」が開かれました。これは、丹波篠山マコモファームはながつみ代表の生野由美さんが、お茶に対する敷居を低くし、皆さんに楽しんでもらおうと企画されました。当日は5回の茶席があり、それぞれ約20人が参加。裏千家准教授の細見宗純(淳子)さんや教え子の皆さんが、来場された方々をもてなしました。お茶席では、まず、山の芋を使った上用まんじゅうでもてなした後、生野さんと久保佳代さんがお点前を披露。来場者は抹茶をじっくりと味わいながら至福のひとときを過ごしました。生野さんは「日本の伝統を引き継ぐ方が少なくなる中で、茶の湯を通じて、日本人の思いを引き継ぐ方が増えればうれしい」、久保さんは「みんなで一つのものをつくり上げる楽しさを学べる場がお茶の世界です。ぜひ若い方にも参加してほしい」、細見さんは「お茶を通じて相手を思う気持ちや感謝の気持ちといった茶の湯の心を、普段の日常生活に生かしてほしい」とその思いを話されました。



さんしんの日 in 丹波篠山

沖縄文化の原点である三線*1)の伝統と技術を受け継いでいこうと、毎年3月4日は「さん・しん(三線)」の日として、全国の三線の愛好家たちによる沖縄民謡のイベントが各地で行われています。丹波篠山でも、えだまめの木(小立)を会場に市内外で活動する7組のアーティストたちが集い、沖縄の民謡を奏でました。このイベントは、昨年の丹波篠山国際博を契機に継続できるイベントを行おうと開催され、今年で2回目となります。イベントでは、たきブックス文化倶楽部や、瀬戸洋美さん、三線ガールズ、すうみんさんなどのアーティストが演奏を披露。会場では三線の音色や歌声が響き渡り、来場者も一緒に歌うなど、三線の日を楽しんでいました。イベントを企画した仲谷佳子さんは、「今後も継続して行っていきたいと思えます。沖縄に古くから伝わる伝統的な弦楽器・三線をみんなで一緒に鑑賞して共感してほしい」と話されました。

*1) 沖縄を象徴する伝統楽器。日本の三味線の祖となった楽器とされている。



つくる人 Vol.12

児玉みのりさん (so arrow)

ガラス作家として、西紀南地区の□阪本で工房兼ギャラリー「so arrow」を開かれている児玉みのりさん。

会社勤めをされていたころ、ガラスの世界に魅せられ、東京ガラス工芸研究所(神奈川県)に入塾。2年間学ばれた後、愛媛県の吹きガラス作家のもとで3年間修行し、2006年に独立。京都で工房を立ち上げられました。しかし、「丹波篠山の緑豊かな環境で自分のギャラリーと工房をもちた

い」という思いから、市内で物件を探し続け、2017年に移住。翌年、古民家を改修し、工房兼ギャラリーを開設されました。

児玉さんはオブジェのほか、花器や食器などさまざまなものを制作されています。その作品は、古代メソポタミアに起源をもつ「パト・ド・ヴェール」の技法を用いて製作され、耐火石膏で作った型の中にガラスの粉末を詰め、窯で焼成して成形されます。ほかに、陶芸の材料や技法を取り入

れ、吹きガラスで成形した後、窯で焼くことで独特の色や質感を表現されています。

「ガラスはとてもおもしろい素材だと思えます。光を通したり、包み込んだり。繊細だったり、力強かったり。もっとガラスのことが知りたくて作っています」とその思いを話されます。

丹波篠山に移住してから、自然や日常的な景色からインスピレーションを得て作品を制作することも多くなったという児玉さん。

「制作したい作品は数多くあります。今後は、それをより深く、作り進めていきたいです」ときっぱり。続けて、「これからも、自分が納得いくまで突き詰めていきたい」と力強く話されました。

ユネスコ工芸都市加盟認定から10年。活躍する工芸家たちの手仕事に迫り、作品に込められた想いや制作のこだわりを紹介します。



ギャラリーのご案内

- オープン
土・日・月曜日
11:00~17:00
(※冬の期間は休み)
- 所在地 □阪本9-1
- 問い合わせ 506-6024

特集 タウンピックアップ HOTとく 情報ピックアップ 市政リーダー インフォメーション おでかけ相談 はぐみ 街かどリポート 栄光輝く まちの話題

丹波篠山ふるさと大使 —活動 Watching—

問い合わせ
創造都市課 ☎552-5796

丹波篠山ふるさと大使に 日本民謡アーティストの Seima(セイマ)さん就任



市内外で丹波篠山の魅力を発信する「丹波篠山ふるさと大使」に、日本民謡アーティストとして国内外で活躍されている Seima さんが就任しました。Seima さんは、8歳から民謡と津軽三味線を始め、「日本民謡 昇勢会」会主・山口勢旭氏に師事し、腕を磨かれてきました。日本民謡優勝戦（兵庫県）で総合優勝を果たし、全国大会にも出場。2018年には丹波篠山市で開催されたNHKのご自慢で「デカンショ節」を披露し、チャンピオンに輝きました。

3月8日にみたけ会館で開催された「民謡の日」イベントで任命式が行われ、酒井市長から委嘱状を交付された Seima さんは、「とても光栄なこと。丹波篠山には温かい方、優しい方が多くいらっしゃるの、そんな丹波篠山の人をもっと多くの方に知ってほしいと思います。丹波篠山から世界へ、世界から丹波篠山へ、そんな人と人をつなげるような大使でありたい」と笑顔で話されました。



夢への かけはし

教育やスポーツ、文化・芸術などの分野で活躍する若者たちを紹介します。

篠山産業高校が初の快挙！商業経済検定 全5科目で4人が合格

このたび、篠山産業高等学校総合ビジネス科3年の岡田彬さん、田畑翔琉さん、団野玲志さん、依藤瑞希さんの4人が、(公財)全国商業高等学校協会主催の商業経済検定試験の全5科目に合格し、1級を取得しました。同検定の「ビジネス基礎」に合格すると3級、「マーケティング」「商品開発と流通」「ビジネス法規」「ビジネス・マネジメント」のいずれか1科目合格で2級、2科目合格で1級取得となり、全5科目に4人が合格することは同校初の快挙となりました。また、4人は、同協会が主催する他の検定試験^{※1)}にもチャレンジし、団野さんと、依藤さんが検定7種目すべてに1級合格する「7冠」を、岡田さんと田畑さんは「6冠」を成し遂げました。



篠山産業高等学校総合ビジネス科3年
田畑翔琉さん、岡田彬さん、依藤瑞希さん、
団野玲志さん(左から)

団野さんは「入学当初から7冠を目標にしてきたので、すごくうれしいです。今後は日商簿記1級に挑戦したい」、依藤さんは「兄が6冠を記録していたので、兄を超したいと7冠をめざしてきました。達成できてほっとしています」、岡田さんは「部活動の商業研究部に入部するには、商業経済検定試験に合格するという条件をクリアしないとイケないためチャレンジしました。おかげで自分の成長につなげることができました」、田畑さんは「合格するために全力で勉強してきました。自分の中でやればできるという自信になりました」と、その喜びを話します。科長の中谷江里さんは、「4人はその知識技能を使って、しっかり頑張ってくれました。進学する大学でも、さらに知識技能を磨いて成長してほしいと思います」とその活躍をたたえました。

※1) (公財)全国商業高等学校協会主催の検定試験

- ①ビジネス計算実務検定(電卓) ②同(珠算) ③簿記実務検定 ④ビジネス文書実務検定 ⑤英語検定 ⑥情報処理検定(ビジネス情報) ⑦同(プログラミング) ⑧商業経済検定 ⑨財務諸表分析・財務会計・管理会計検定

大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎FAX506-6628
丹波篠山フィールドステーション ☎FAX506-2366

学生・アクション ラーニング



実践農学入門の成果発表会

神戸大学農学部では、「実践農学入門」という授業を市内で実施しています。学生は農業や農村の暮らしを体験しながら地域の課題を学び、学部教育で培った専門性と結び付けて、課題解決に向けた取り組みを検討しています。

2025年度は後川地区をフィールドに実施。1年間の総まとめとして成果発表会を開催しました。6班に分かれて活動してきた42人の学生は、農家の皆さんから学んだことや農作業の経験を通して得た気づきをもとに、地域課題に対する新たな視点からの提案を行いました。

学生が作成したポスターおよび発表は、審査の結果「後川応援隊」(6班)が市長賞、「農家直送!!後川公式LINE」(3班)が農学研究科地域連携センター長賞を受賞しました。

これらのアイデアは、地域のニーズと学生の主体的な発想を掛け合わせたものであり、今後は実現に向けて具体的なプロジェクトとして展開していく予定です。引き続き、学生たちの活躍にご期待ください。



「後川応援隊」(6班)



「農家直送!!後川公式LINE」(3班)の発表の様子

トレース検定1級合格 篠山産業高校・ 細見さん理事長賞の快挙!



篠山産業高等学校機械工学科3年
細見莉央さん

令和7年度トレース技能検定試験において、篠山産業高等学校機械工学科3年の細見莉央さんが1級に合格し、全国3位相当の合格者に贈られる中央工学校生涯学習センター理事長賞を受賞しました。

トレース技能検定試験は、設計図やデザイン画を正確に描き写すのに必要な製図の知識・技能を評価するもので、(一財)中央工学校生涯学習センターの主催で毎年実施されています。細見さんのほかにも同校では1級に2人、2級に4人が合格。団体においても同校の機械工学科も全国2位に相当する中央工学校生涯学習センター理事長賞を受賞されています。

受賞を受けて、細見さんは「夏休みや放課後など、こつこつ練習してきたかがありました。今後は工業大学に進学するので、この技術を生かしていきたい」と笑顔で話されました。ほかにも、機械加工技能士(マシニングセンタ作業・普通旋盤作業)、機械検査技能士、機械保全技能士のそれぞれ3級の資格も取得されている細見さん。科長の中尾義則さんは、「学校生活では生徒会長として、ほかの生徒の模範となり、後輩たちの励みにもなっています。今後もその活躍を期待しています」と話されました。



お花見市長室 土・日曜日も開放!

桜の開花に合わせて市長室を開放します。お城の桜が一望できますので、ぜひお越しください。

とき 3月下旬～4月中旬 10:00～16:00



※開始日や終了日は桜の開花状況により変更になることがあるため、市ホームページをご確認ください。申し込みは不要ですが、入室前の受付で氏名などを記入いただきます。

問い合わせ 市長公室☎552-5109

今月のこんにちは市長室

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、懇談会または1人15分程度の面談です。

とき 4月10日(金) 16:00～19:00
ところ 本庁舎3階 応接室
問い合わせ 市長公室☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **ほっと HOT** とく

丹波篠山の時代をつくろう



寒い季節ですが、丹波篠山が熱い!!

市民ミュージカル「シンデレラ」 大きな感動をありがとう

2月7日、8日、11日の3日間、全6回公演で開催された丹波篠山市民ミュージカル第12弾「シンデレラ」。来場者数は約3,800人。多くの方が感動の涙を流しました。今回は出演者の約半分が小さな子どもたちで、一人ひとりが歌や踊り、せりふをしっかりと覚え、大きな声で演じていて、とても感動しました。また、衣装は全て手づくりで、出演者の保護者の方も総出で作られました。市民手づくりのミュージカルが、これからも丹波篠山に息づくよう願っています。



桶ツト卓球世界大会 開催!

2月22日に「桶ツト卓球世界大会」が開催されました。当日は、全国各地から総勢104組208人が出場。それぞれ彩りのある衣装を着て、大会を盛り上げていただきました。丹波篠山ふるさと大使の森田まりこさんにも来ていただき、テレビ局は5局も来られました。今後も丹波篠山発祥のスポーツである桶ツト卓球を通じて、丹波篠山を全国、そして世界へとPRします。

- 男子の部 奥山チーム (奥山陽介さん、奥山郁夫さん)
- 女子の部 ゆみくみ (前川由美子さん、西田久美子さん)
- 男女の部 お弓と喜蔵参上 (藤田喜三さん、小林真弓さん)

優勝チームは全て、地元 丹波篠山のペアです!

ABCマラソン 人気復活!

3月1日、第46回丹波篠山ABCマラソン大会を開催。市民マラソンの草分けで「東の青梅、西の丹波篠山」と言われています。制限時間の延長、リレーマラソンの導入、ユニホームの事前発送など工夫を凝らし、人気復活です!フルマラソン8,118人が出走、4割以上が初参加の方でした。何といても沿道の市民の応援、黒豆や栗のお菓子の振る舞い、吹奏楽演奏など、あたたかいおもてなしが好評です。ゲストには、野口みずきさん、ぺこばのお2人、きゃっするひとみさんらにご参加いただき、大いに盛り上げていただきました。



こんにちは市長室

ご意見やご要望を直接お聞きします

問い合わせ 市長公室☎552-5109

市民の皆さんのご意見やご要望を市長が直接お聞きする場として、毎月1回、偶数月は市役所、奇数月は支所などで「こんにちは市長室」を開催しています。

事前の申し込みは不要で、お越しいただいた順に、お一人15分程度の面談形式または懇談形式となります。

多くの方のご参加をお待ちしています。

時間

市役所本庁舎 = 16:00～19:00
本庁舎以外 = 13:30～16:00

※日程が変更になる場合は、広報紙やホームページなどでお知らせします。



市長が直接出向きます! 「おでかけ市長室」

問い合わせ 市長公室☎552-5109

「おでかけ市長室」とは

市長が市内で活動する団体・グループ、学校、企業などに出向き、直接、市民の皆さんと意見交換を行います。1回あたりおおむね1時間30分以内とし、日時は開催を希望する団体などの代表者と調整のうえ決定します。

テーマ

日頃の取り組みや課題、まちづくりへの提言など、実施主体が希望するテーマ

対象

市内に在住・在勤・在学、または市内で活動・事業を営まれ、おおむね5人以上で構成される、活動・事業の現場、またはその近くで対話・懇談ができる方

申し込み方法

開催希望の1カ月前までに、まずは上記担当課へ電話し、その後申込書を提出

